

安全基準・検査WGの進め方

安全基準・検査WGの設置について

- 自動運航船の2030年頃までの本格的な商用運航の実現を目指すべく、本年6月より「自動運航船検討会」を設置し、安全基準・検査方法、責任・保険等について検討を開始。
- 第1回検討会において、安全基準・検査方法について技術的な議論が必要であることから、検討会傘下に「安全基準・検査WG」(座長:清水悦郎 東京海洋大学教授)を設置することを決定。

WGへの付託事項

- 自動運航船の安全基準・検査方法について、検討会で議論する策定方針及び国際規則の議論状況に留意しながら検討を進める。
- 上記検討の結果について、検討会に対して報告を行う。

安全基準・検査WGの構成

<有識者>

清水 悦郎	東京海洋大学学術研究院海洋電子機械工学部門 教授
村井 康二	東京海洋大学学術研究院海事システム工学部門 教授
三輪 誠	神戸大学大学院海事科学研究科 准教授
渡部 大志	埼玉工業大学 副学長・自動運転技術開発センター長
田村 兼吉	(一財)日本船舶技術研究協会 特別研究員
間島 隆博	(国研)海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所 知識・データシステム系長 兼 自動運航船プロジェクトチーム長
巢籠 大司	(独)海技教育機構企画調整部 研究国際課長
山田 智章	(一財)日本海事協会 技術研究所 主管

<関係業界団体>

(一社)日本船主協会、日本内航海運総連合会、(一社)日本旅客船協会、(一社)日本船長協会、
(一社)日本船舶機関士協会、(一社)日本造船工業会、(一社)日本中小型造船工業会、
(一社)日本舶用工業会、(一社)大日本水産会、(一財)エンジニアリング協会

<関係事業者・機関>

(公財)日本財団、(株)日本海洋科学、(株)エイトノット、(公財)日本海事センター、
(公社)日本海難防止協会

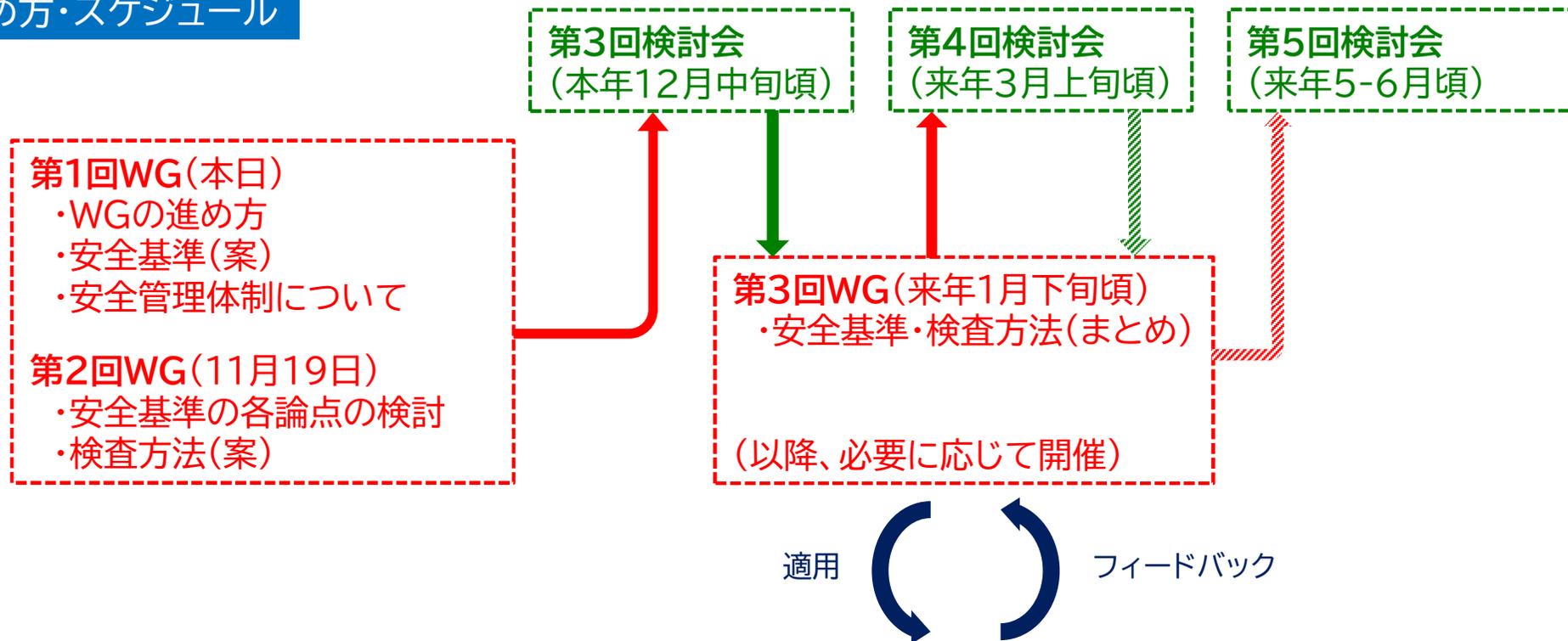
検討の方向性

- ◆ 本WGでは、自動運航船の安全基準及び検査方法を作成するとともに、会社の安全管理において求める事項を検討する。
- ◆ 作成においては、IMO MASSコード案(現在策定中)、国交省海事局「自動運航船に関する安全ガイドライン」(2022年2月)、NK「自動運航、自律運航に関するガイドライン(Ver1.0)」(2020年1月)等の内容を踏まえ、以下の方針で安全基準・検査方法の検討を行うこととする。
 - ① 自動運航船の技術基準については、自動運航システム及び遠隔支援を中心に機能要件ベースの安全基準を策定。
 - ② 遠隔支援については、遠隔直接制御と遠隔監視に分類されるが、現段階では、直近のプロジェクトで想定される遠隔監視(甲板部・機関部)のみを対象に検討。
 - ③ 自動運航を実施することによって新たに必要となる会社の安全管理体制について検討。
 - ④ 検査・認証方法については、リスクアセスメントを活用した方法を定める。

WGの進め方

- 自動運航船の安全基準、検査方法等について、事務局案(国交省にて作成)に基づき検討しながら、並行して各論点の議論を実施。
- **第3回検討会(本年12月)にて中間報告**を行い、WGにおいて**2025年1月頃までに安全基準・検査方法を了承**いただくスケジュールを想定。

進め方・スケジュール



MEGURI 技術開発

MEGURI 実証運航
(来年7月以降～)

新造船
(2025年9月就航)

新型コンテナ船
(約7,800トン)



離島航路船
おりんぴあどりーむせと
(942トン)



コンテナ船
みかげ
(749トン)



RO-RO船
第2ほくれん丸
(11,413トン)